WHITE MEXICO

監督・脚本：井上春生

出演：大江千里　ティアラ　はねゆり　篠原勝之　ブラザートム

製作：WHITE MEXICO製作委員会
エピックレコードジャパン／読売広告社／キューブ／ボイス&ハート／tvk／テレ玉／チバテレビ／三重テレビ／KBS京都／サンテレビ
制作：NPO法人クロスアーツ　制作プロダクション：アン・エンタテインメント　2007年度作品／70分
配給：エピックレコードジャパン　宣伝：オフィス・エイト　協力：アップリンク

主題歌：Akeboshi「Along the Line」作詞・作曲・編曲：Akeboshi（Epic Records Japan）

挿入歌：大江千里「静寂の場所」作詞・作曲：大江千里

「WHITE MEXICO」オリジナル・サウンドトラック 音楽：Tokyo Grand Orchestra（Epic Records Japan）
（主題歌：Akeboshi「Along the Line -WHITE MEXICO version-」挿入歌：大江千里「静寂の場所」収録）

CINEMA×MUSIC CineMusica 第3弾 www.cinemusica.jp

WHITE MEXICO

Introduction

人生を見失ったとき、誰かとの 出会い によって生まれた至福の時間の物語
cinemusica（シネムジカ）シリーズ待望の第3弾！

映像と音楽の新たなカタチを創造する cinemusica シリーズで、話題を集めた『チェリーパイ』、『東京の嘘』に次ぎ、第3弾として製作されたのが『WHITE MEXICO』である。第3弾の今回は、最愛の家族を失ったことで未来を見失ってしまった男と唯一の肉親である祖父を日本で亡くしロシアから来た女が出会い、温かなつながりを見出して迷路から脱け出す東京から青森への道行きをコミカルにときに切なく綴る、このうえない幸福感に満ち溢れた珠玉のロードムービー。そんな二人の心の軌跡を繊細かつコミカルに演じ、絶妙なコンビネーションで観るものを世界に引き込むのは、佐藤役の大江千里とパステル役のティアラ。アーティストの域にとどまらず、俳優としても定評のある大江千里が実に17年ぶりに映画に主演、飄々とした中に哀愁を漂わせた演技で圧倒的な存在感を放つ。さらに佐藤の決して言葉には表さない心情を歌にのせて綴ることでこの作品は完成すると考えた監督の井上は大江に急遽楽曲を依頼、役になりきっていた大江は限られた10日間という短い期間で佐藤に寄り添う曲を見事に作り上げたのだった。物語の中盤に流れるこの曲はまるで佐藤が心模様を吐露するかのように静かに観客に語りかけ、心に沁みいる。映画出演4作目にして初主演のティアラは、恵まれたルックスを生かしロシア人と日本人のクオーターというユニークなヒロインを弾けるような瑞々しさで物怖じせずに演じきった。その射るようなまっすぐな瞳が印象的な彼女は今後の活躍が楽しみな女優のひとりだ。また"ゲージツ家"の篠原勝之やブラザートムが要所に登場し、物語にコミカルな味を加えている。そして作品のラストに華を添えるのは、ドリームエアー社の全面協力によって撮影が行われた、クラシック複葉機・WACO。日本で唯一空を飛ぶことを許されたこの複葉機の、鮮やかな黄色でぷっくりとした愛嬌のある機体は、ノスタルジーをかきたて物語にロマンチックな華を添えている。

cinemusica meets Akeboshi

本シリーズの柱のひとつ、主題歌を担当したのは国内外の注目を集める話題のシンガーソングライター・Akeboshiだ。インディーズ時代からその類まれな独自性で熱狂的な支持を得てきたAkeboshiが満を持して cinemusica シリーズに迎えられた。本作でもその鮮烈なオリジナリティを存分に生かして、シナリオからインスパイアされて曲を作り上げた。佐藤とパステルの間に流れる温かい空気感を見事に表現して、そのラストをじんわりと盛り上げている。

Story

死に場所を求めて彷徨う男は、ロシアから来た無鉄砲な天使と出会った―

殺伐とした大都会、東京。東京湾を見下ろすバス停で青森行きの長距離バスを待ってひとりの男、佐藤（大江千里）が並んでいる。足元に置かれた、札束の詰まった紙袋がワケあり気だ。ついに復讐を果たし、どさくさに紛れて奪いとった大金。3ヶ月前、妻を亡くして以来唯一の心の支えだった高校生の娘・祐未（はねゆり）が殺された。佐藤が店長をつとめるコンビニでアルバイトをしている最中、絡んできたチンピラに抵抗してナイフで刺されたのだ。そんな祐未が生前楽しみにしていたのが、一生懸命アルバイトで貯めたお金で佐藤と一緒にメキシコへ行くことだった。メキシコにいる神父が孤児院の資金を稼ぐためにプロレスラーになった話に感激して、その男の試合をとてもみたがっていたのだ。この札束を「メキシコの慈善プロレス団体」に寄付する。そうしたら彼の仕事は、さらに言えば彼の人生は終わるはずだった。偶然事情を知って後を追いかけてきた看護婦のミユキ（東山麻美）が訳知り顔で一緒に逃げようとしつこく持ちかけてくるが、佐藤には邪魔なだけだ。そこへミユキを手際よく追い払って佐藤に助け舟を出したのが、ロシアから来た若い女・パステル（ティアラ）だ。美しい顔立ちに反して一風変わった日本語を操るこの女は佐藤を見るなり言い当てた。「死ぬの？」と。　やがてミユキをひとり残して、長距離バスは青森へ向けて走り出した。パステルはロシア人と日本人のクオーターだ。日本語は日本人の祖母・ミツコに教えてもらったのだと言う。ミツコをロシアに連れ帰った祖父のアンドレイは命知らずの曲芸飛行士だった。その唯一の肉親だった最愛のアンドレイがつい最近日本の航空ショーを前に急死し、パステルは日本に置いたままになった複葉機を引き上げるために祖母の故国に初めてやって来たというわけだ。免許を持っているから輸送費を浮かすために　乗って　ロシアまで持ち帰るつもりだ。その複葉機は一度も会ったことのない青森にいるミツコの兄・辰雄（篠原勝之）が預かっている。しかしアンドレイは悲しみだけでなく、ショーの契約キャンセル料としてパステルひとりでは抱えきれないほどの借金を遺した。複葉機を売り払ってもとても足りない。佐藤の紙袋をしたたかに狙ってパステルは佐藤に近づいた。親子ほどに歳が離れて、ともに最愛の人を失った佐藤とパステル。隣り合った座席に座って取りとめもない言葉を交わすが、想いはまったく別の場所に向けられていた。そんなとき事件は起こった。停車したバスに突然刑事（ブラザートム）が乗り込んで来たのだ。佐藤を守ろうと焦ったパステルは佐藤が隠し持っていた拳銃を奪って刑事に銃口を突きつけた。だがそれは大いなる勘違いだった。実は刑事は前の乗客が置き忘れた貴重な「クワガタ」を探しに来ただけだったのだ。引くに引けないパステル。刑事に銃口を突きつけたまま佐藤を促すと、紙袋を持って見ず知らずの車に飛び乗った。佐藤とパステルは思いがけず「共犯者」のように逃走するハメになってしまう…。

Cast

大江千里
1960年、大阪府生まれ。
1983年、EPIC/SONY RECORDSよりアルバム「WAKU WAKU」、シングル「ワラビーぬぎすてて」でデビュー。84年にはCM曲「十人十色」でスマッシュ・ヒットを飛ばして一躍人気者となった。「あいたい」「格好悪いふられ方」「ありがとう」などヒット曲多数。音楽活動のみならず俳優や、テレビ司会者、ラジオパーソナリティー、エッセイストなどマルチに活動し、数多くのファンを魅了し続けている。

ティアラ
1987年、沖縄県生まれ。
モデルとしてファッション誌を中心に活躍している。またモデルだけにとどまらず、数多くのCMやCHEMISTRY×Crystal Kay「Two As One」のPVに天使役で出演するなど活躍の場を広げ、06年には映画「ハチミツとクローバー」や「ウール100%」に出演。今後の活躍が非常に楽しみな若手女優のひとりである。

はねゆり
1989年、愛知県生まれ。
「SEVENTEEN」の専属モデルとして活躍中。
またCM「C.C.レモン」やドラマ「週刊　赤川次郎」などにも積極的に出演、舞台にも挑戦している。中学二年生の頃より始めた作詞が講じて、自ら作詞した詞は、等身大の高校生らしさを素直に表現した歌詞と透明感溢れるしなやかな歌声でアーティストとしての活躍も今後大いに期待されている。なお本作が初めての映画出演となる。

篠原勝之
1942年、北海道生まれ。
グラフィックデザイナー、画家、絵本作家、状況劇場のポスター、舞台美術を手がけた後、エッセイ「人生はデーヤモンド」（1981）で注目を集める。1985年、ビルの解体現場で出遭った有機的な鉄の姿に衝撃を受けて以来、"ゲージツ家"としてダイナミックな造形をモンゴル、サハラ砂漠、をはじめ国内外で精力的に創り続ける。50点に及ぶ常設作品のほか、土地の自然に呼応するインスタレーションを次々と発表。作品の無国籍な力強さは海外でも評価され、独自のスタンスを貫いている。

ブラザートム
1956年、ハワイ生まれ。
1980年、警官コントでコメディアンとしてデビュー。その後、ブラザーコーンとTHE BUBBLE GUM BROTHERSを結成し、93年には「WON'T BE LONG」がミリオンセラーとなる。96年にバンドREAL BLOODを結成、2000年にはミュージカル「Miracle Brind Boys」を完成させた。企画者、制作者、作家、脚本家、演出家、作詞家、歌手、ナレーター、役者、放送作家、エッセイスト、コラムニスト、タレント……といったさまざまな顔を持ち、マルチに活躍している。

Akeboshi
1978年、神奈川県生まれ。本名、明星嘉男。
幼少期よりピアノを習い始め、13歳からバンド活動を始める。1999年高校卒業後渡英、リバプールの芸術大学LIPAに留学。留学中に世界各国から集まってきたミュージシャン達と親交を深め、バンドを結成し積極的な音楽活動を展開。2002年8月、インディーズよりlstミニ・アルバム『STONED　TOWN』を発表。03年6月、2ndミニ・アルバム『White reply』をリリース。LIPA卒業を機に一旦帰国し、「FUJIROCK FESTIVAL '03」をはじめ、精力的にライブを行う。04年3月、3rdミニ・アルバム『Faerie　Punks』をリリース。全国5ヵ所のワンマン・ツアーを実施、全会場ソールドアウト。夏には「RISING SUN ROCKFESTIVAL 2004 in EZO」に出演する。05年6月、EPIC RECORDS JAPANよりインディ盤3枚から楽曲を選りすぐったアーリーベスト的フル・アルバム『Akeboshi』をリリース。05年10月、1stマキシ・シングル「Rusty lance」をリリース。06年4月、ミニ・アルバム『Yellow Moon』をリリース。リード・トラック「Yellow　Moon」の作詞に井上陽水氏を迎えた意欲作を発表。大きな話題となる。そして07年夏に待望の新作を発表する予定。現在、独自の音楽性で国内外から、その動向が注目を集めているシンガーソングライターである。

お台場シネマメディアージュ	
03(5531)7878	2007年8月18日[土]公開

TOHOシネマズ ららぽーと横浜	
045(929)1040	2007年8月18日[土]公開

TOHOシネマズ 南大沢	
042(679)6180	2007年8月25日[土]公開

TOHOシネマズ 八千代緑が丘	
047(459)9411	2007年8月25日[土]公開

TOHOシネマズ 名古屋ベイシティ	
052(659)0111	2007年9月8日[土]公開

TOHOシネマズ 泉北	
072(295)4848	2007年9月8日[土]公開

2007年8月18日[土]～全国順次公開